

東石山 中学校区（東中野山小，南中野山小，東石山中）

【目指す子どもの姿】

「未来を創り出す子ども～自分の未来と地域・社会の未来～」

- ・自ら知性と自尊感情を高め、しなやかさと品格を備えた子ども
- ・将来、自己実現を図りながら、地域社会に貢献し、国際社会で活躍できる子ども

〈「目指す子どもの姿」の設定の仕方〉

- ・平成29年4月（指定一年次）に、東石山中学校区における小中一貫した教育を推進するための組織づくりを行い、まず小中一貫教育推進委員会（当学区では連絡会と称す）と推進委員会を立ち上げた。
- ・3校の校長・教頭・教務主任による推進委員会において、各校の教育計画作成時に考慮する学校課題や地域課題（その中には保護者・地域の願いも含まれている）及び新潟市生活・学習意識調査や全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙の分析結果等を持ち寄り、3校が一貫して目指す子どもの姿・学校の姿、共通に身に付けさせたい資質・能力を含む【一貫教育推進ビジョン案】を作成した。
- ・推進委員会において作成した【一貫教育推進ビジョン案】を各校の学校評議員会で検討したのち、第1回合同研修会において3校全職員で協議と共通理解を図った。
- ・その後、保護者および地域の代表を含めた小中一貫教育推進連絡会で説明し、決定した。

◆共通プログラム

①「9年間を見通した生活科・総合的な学習の時間」における小中一貫した教育としての取組

別紙参照：様式2「各中学校区における小中一貫した教育の取組2」

〈「身に付けさせたい資質能力」とその実現に関わる方法について〉

【身に付けさせたい資質能力】

- ・地域の人・もの・ことに積極的ににかかわり、他者と協働して問題解決に取り組み、自己のよさに気付く。
- ・地域への愛情・愛着をもち、そのよさを伝える。
- ・地域の課題について考え、地域の一員として、主体的に行動しようとする。

【その実現に関わる方法】

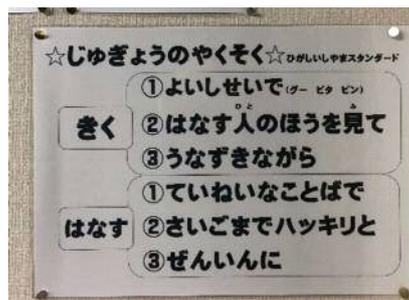
- ・合同研修会で各校の生活科や総合的な学習の時間の年間指導計画を持ちより、どのような取組が実践されているか、共通理解を図った。
- ・各校で共通して取り組んでいる活動に着目し、それを踏まえて、中学校区で身に付けさせたい資質や能力を設定した。
- ・中学校区で目指す子どもの姿や身に付けさせたい資質や能力の枠から、各校の生活科・総合における教育活動をとらえ直し、指導計画の見直しを図った。特に重点的に取り組む単元を絞り、それに基づいて、小中一貫した教育の取組の一覧表を作成した。
- ・合同研修会で情報交換及び実践発表を行い、各校の取組をすり合わせた。小中一貫した教育の取組の一覧表を再確認し、共通理解を図った。

②「9年間を見通した学習の仕方」の取組

「9年間を見通した学習の仕方」の内容

- 1 中学校の定期テスト時期に合わせた家庭学習強調週間の設定
- 2 学習用具について（家庭向け文書）
- 3 **東石山スタンダード 聞き方・話し方**

- 聞く ①良い姿勢で グーピタピン
②話す人の方を見て
③うなずきながら
- 話す ①丁寧な言葉で
②最後までハッキリと
③全員に



〈「9年間を見通した学習の仕方」の設定・運用の仕方〉

- ・平成29年度、後述の三つのプロジェクト部会のうち、「学びの連続」部会では、各校の実態を共有し、課題を洗い出すため、各校で指導している「学習のきまり」をもちより、授業での学習の仕方や持ち物のきまり、家庭学習について共通点や相違点について話し合った。また、子どもたちの学校生活全般について『〇〇小（中）学校の児童（生徒）の1日』を作成し、3校の全職員に配付して共通理解を図った。
- ・中学校の定期テスト期間に合わせて、両小学校で家庭学習強調週間を設定し、学習に集中して取り組む期間を中学校区で設定した。
- ・平成30年度当初、29年度の話し合いをもとに、『学習用具』について共通の指導をしていくことを確認し、家庭向けに協力をお願いの文書を配付した。
- ・授業での学習の仕方について、共通課題を解決するために、最も基本となる「聞くこと」と「話すこと」について『東石山スタンダード』を作成した。11月の授業交流会から取組を開始し、来年度は各校で掲示し、共通して取り組んでいく。

③ 「小中一貫合同研修会」の取組

「小中一貫合同研修会」のねらいや次第・研修内容の概略

※平成29年度には年間4回実施した。平成30年度には年間6回実施した。

<平成29年度第2回合同研修会（8月）の概要>

- 1 ねらい
 - ・組織した三つのプロジェクト部会で、目指す子どもの姿の具現に向けてどういう具体的なアプローチができるかアイデアを出し合い、プロジェクトの内容を決定する。
- 2 内容
 - ・全体説明（推進委員会：中学校教頭）
 - ・プロジェクト部会（推進のとびら1「学びの連続」、2「自律性と社会性を育む生徒指導の連続」、3「地域との協働」）に分かれて各校教頭が進行。それぞれのプロジェクトのとびらからどのような資質・能力を身に付けさせるのかを協議する。
 - ・推進委員会から示された基本プランを基にしながら具体的な実践内容を協議する。
 - ・全体共有

<平成30年度第1回合同研修会（5月）の概要>

- 1 ねらい
 - ・事業指定二年次にあたり、目的、目標（目指す子どもの姿・学校の姿）、取組内容（共通プログラムと独自プログラムの内容とその理由）を確認し、改めて共通理解を図る。
 - ・推進組織と一年次の進捗状況を確認し、二年次のプロジェクト内容および合同研修会等の予定について共通理解を図る。
- 2 内容
 - ・全体説明（推進委員会：中学校教頭）
 - ・プロジェクト部会（推進のとびら1, 2, 3に分かれて各校教頭が進行。次回までに行うことを確認・調整する。）

〈「小中一貫合同研修会」の実施方法の工夫〉

- ・3校の全職員が分かれて三つのプロジェクトに所属し、3校連携・協働して実践していく。
- ・三つのプロジェクトとは、【推進のとびら1「学びの連続」〈共通の学習ルール設定、英語・外国語の実践推進、道徳科の実践推進〉】、【推進のとびら2「自律性と社会性を育む生徒指導の連続」〈学級力向上プロジェクト・SEL（社会性と情動の学習）・ピアサポートの年間計画に位置付けての実施、品格教育・PBIS（ポジティブな行動介入と支援）を組み合わせた生徒指導の実践、成果の測定による評価・改善〉】、【推進のとびら3「地域との協働」〈総合・生活科のすり合わせ、地域代表と児童生徒代表の話し合いの場〔未来づくり委員会〕の実施、家庭・地域での品格教育の推進〉】である。
- ・全体での共通理解→三つのプロジェクト部会ごとの協議→全体共有を基本的な流れで行う。
- ・三つのプロジェクトの推進を3校で分担し、教頭が推進責任者、校長が指導者となって進める。
- ・目指す子どもの姿と小中学校共通の課題を踏まえて推進委員会および3校校長会から示された取組の基本プランを基にしながら各プロジェクトで具体的な内容と計画を立案する。
- ・各プロジェクトでは、3校の職員が一緒にグループワークを行い、アイデアを出し合ったり、それぞれの発達段階に応じた実践上の課題について解決方法を共に考えたりする。また、各校での実践の進捗状況を確認し、修正点を話し合う。

④ 「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の取組

「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」のねらいやメンバー・次第・協議内容の概略
※東石山中学校区では「小中一貫教育推進連絡会」という名称で組織している。

1 ねらい

- ・小中一貫教育の推進を通して、学校の未来と地域の未来を共に創るという目標を学校・地域・保護者が共有し、より密接につながることによって、地域の教育課題を解決し、地域にとって確かな価値となる教育を創り出すという理念を共有する。
- ・目指す子どもの姿と課題を共有し、中学校区の特徴を踏まえた9年間を貫く共通プログラム及び独自プログラムに組織的・計画的・継続的に取り組んでいく意義と具体的な内容の共通理解を図る。

2 メンバー

コミュニティ協議会会長、育成協会会長、各校PTA会長、各校校長・教頭・教務主任・地域教育コーディネーター（計17名）

3 第1回推進連絡会（平成29年度4月開催）の概要

- ・あいさつ（中学校長）
- ・メンバー顔合わせ（自己紹介）
- ・事業の目的と【一貫教育推進ビジョン案】の説明（中学校長）
- ・課題のとらえ、目指す子どもの姿と9年間を通して身に付けさせたい資質・能力のとらえについての意見交換
- ・推進組織、プロジェクト内容、合同研修会等の計画の説明（推進委員会：中学校教頭）
- ・全体計画についての意見交換
- ・あいさつ（小学校長）

〈「中学校区ごとの小中一貫教育推進委員会」の実施方法の工夫〉

- ・3校の教育課題と地域、保護者が考えている地域の子どもの課題を出し合いながら、地域・社会の未来を創り出していく人材としてどのような資質・能力を身に付けさせたいか意見を交換する。
- ・地域の特性や課題を踏まえ、9年間を通して目指す子どもの姿を明確にして共通理解を図る。
- ・推進組織および全体計画が2年間の事業指定期間にとどまらずその後も持続可能となるように意見を交換する。
- ・小中学生代表を入れての意見交換も行う。
- ・保護者と地域の代表が理解しやすいように【一貫教育推進ビジョン案】を作成するとともに、プレゼンテーションの内容を工夫する。

◆独自プログラム（「目指す子どもの姿」の達成を図る教育活動は◎）

① 何を（取組内容）：◎英語と道徳の実践内容の共有

【ねらい】

9年間を見通して、成長段階に応じた指導内容の工夫改善を進めるため。

【いつごろ（時期）】

A 年5回（4月、6月、8月、12月、2月）

B 9月

【どのように（取組方法）】

A 年5回、3校【学習・道徳】部会で、各校の実践内容について情報交換をする。そして、共通に取り組む必要があることについて確認し、実践に生かす。

B 当番校で授業公開し、3校職員全員が参観し協議会を行い、最後に外部指導者から指導していただく。

② 何を（取組内容）：◎学級力向上プロジェクト・SEL・ピアサポート・品格教育について、3校での実践と成果の分析

【ねらい】

中学校区内3校で、同じような活動により、9年間通して児童生徒の自律性と社会性を育む生徒指導の推進を図るため。

【いつごろ（時期）】

○ 年5回（4月、6月、8月、12月、2月）

【どのように（取組方法）】

○ 年5回、3校【生徒指導】部会で、各校の実践内容について情報交換をする。そして、共通に取り組む必要があることについて確認し、実践に生かす。

③ 何を（取組内容）：◎地域代表と児童生徒代表の話し合いの場、「未来づくり委員会」の実施

【ねらい】

地域・家庭・学校が当事者意識をもって、地域の課題解決を目指すため。

【いつごろ（時期）】

○ 年2回（6月、12月）

【どのように（取組方法）】

○ 地域・保護者代表と児童生徒代表・小中学校職員が、地域の課題について話し合い、実現可能な解決方法を考え、実行する。

【中学校区における目指す子どもの姿】

「未来を創り出す子ども～自分の未来と地域・社会の未来～」
 ・自ら知性と自尊感情を高め，しなやかさと品格を備えた子ども
 ・将来，自己実現を図りながら，地域社会に貢献し，国際社会で活躍できる子ども



【「目指す子どもの姿」を実現するために，生活科・総合的な学習の時間で行う教育活動】

【中学校区における身に付けさせたい資質・能力】

- ・地域の人・もの・ことに積極的にいかかわり，他者と協働して問題解決に取り組み，自己のよさに気付く。
- ・地域への愛情・愛着をもち，そのよさを伝える。
- ・地域の課題について考え，地域の一員として，主体的に行動しようとする。

【9年間を見通した学習の仕方】

- 「9年間を見通した学習の仕方」の内容
- 中学校の定期テスト時期に合わせた家庭学習強調週間の設定
 - 学習用具について（家庭向け文書）
 - 東石山スタンダード 聞き方・話し方
 - 聞く ①良い姿勢で グービタピン
 - ②話す人の方を見て
 - ③うなずきながら
 - 話す ①丁寧な言葉で
 - ②最後までハッキリと
 - ③全員に

【 独自プログラム 】

- 「目指す子どもの姿」の達成を図る教育活動は◎
- ◎推進のとびら1「学びの連続」
 - ・英語、外国語の実践推進
 - ・道徳科の実践推進
 - ◎推進のとびら2「自律性と社会性を育む生徒指導の連続」
 - ・学級力向上プロジェクト、SEL、ピアサポートの年間計画に位置づけての実施
 - ・品格教育・PBISを組み合わせた生徒指導の実践
 - ・成果の測定による評価・改善
 - ◎推進のとびら3「地域との協働」
 - ・地域代表と児童生徒代表の話し合いの場「未来づくり委員会」の実施
 - ・家庭・地域での品格教育の推進

東石山中学校

学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿にせまるための手立て
3	キャリア・社会貢献 ①社会に貢献する生き方について考える。 ②自分の人生を主体的に設計する。	①修学旅行での企業訪問活動を通して，社会に貢献する意味と未来を創り出す人材として求められている資質・能力とはどんなことか理解する。 ②上級学校（大学や専門学校）の訪問活動を通して，将来の夢や目標を思い描きながら主体的に人生設計をしていく意義を考える。	・高い志と意欲をもちチャレンジ精神，創造性，探究心を伸ばす。 ・情報収集と分析を基に判断，自己決定する力を高める。 ・地域社会に貢献し，国際社会で活躍する人材を目指そうとする意欲を育む。
2	キャリア・自己理解 ①将来に対する夢や希望を描く。 ②自己理解を深め，よさや強みを生かした生き方を考える。	①②3日間の職場体験活動と事前・事後の学習活動を通して，自分のよさや強みを生かしながら他者と協働して目標を実現させたり新しい価値を創造したりしていく生き方について実感的に理解する。自己理解を深め，使命感，貢献意識，自己肯定感を高めていく。	・モデルとなる大人にふれることによって視野を広め，社会のために何かをしたいという意識（貢献意識）を高める。 ・人任せにせず進んで手を挙げる人になるという意識（使命感）を高める。 ・自分のよさや強みを積極的に生かしていこうとする意識（自己肯定感）を高める。
1	地域・福祉・大好きにいがた体験 ①地域の特徴や課題，これからの社会の課題を理解する。	①大好きにいがた体験事業として，福祉の視点から地域の特徴と課題を探究する活動を行う。	・地域の福祉施設や関係機関への訪問取材・体験を通して，地域のよさと課題に目を向けるとともに，自分たちに対する地域の思いや期待にふれ，地域の一員として課題解決や未来の地域づくりに関心をもち，積極的にかかわっていかうという意欲を高める。

東中野山小学校			南中野山小学校				
学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿にせまるための手立て	学年	題材・単元名	主な学習内容	目指す子どもの姿にせまるための手立て
6	キャリア 大好きにいがた体験 「見つめよう わたしたちの将来」	自分の性格や好み、関心、体験してきたことについて整理して、自分に向いた仕事は何かを考える。自分が大人になって就きたい職業や目標にしている職業、あこがれの職業について調べ、まとめる。	体験活動や修学旅行等でのいろいろな人と関わり、自分の見方を広げたり深めたりする。各種の職業に就いている人の話を聞いたりインタビューをしたりして、自分の生き方や考え方をふり返り、将来の自分の職業について考える。	6	キャリア 大好きにいがた体験 「新潟に学ぶ・未来の自分を考える」	「ふるさと新潟」の思いを強くするため、離島・佐渡の素晴らしさに触れ、南中野山地域のそれと比較する。さまざまな分野で活躍する先輩から、それぞれの生き方について学び、未来の自分の生き方へとつなげる。	情報を整理し、南中野山地域のよさについて、佐渡と比較してまとめる。様々な職業の人たちとふれ合い、それぞれの考えを尊重する姿勢を養うとともに、自分の未来の在り方について考える。
5	キャリア・地域 大好きにいがた体験 「お米再発見!お米のよさをまとめよう」	学校田での稲作活動やJAの方の話から、稲作について自分のテーマを決め、調べる。調べたことを新聞にまとめる。	稲作について理解を深め、地元のお米を大切にしようとする気持ちを持ち、日常生活の中でお米を大切にしようとする。地産地消の食生活や、安全な食のため自分にできることを考えて実践する。	5	環境（農業） 大好きにいがた体験 「新潟を育てる・新潟をいただきます」	学校田での観察や体験を通して、農業や環境維持に関心を持ち、それに携わる人たちの思いや身の回りの環境について調べる。	環境の維持・向上のために日常生活の中で自分たちにできることを考え、発信する。自分事として考え、伝え合うことを通して、協力することや互いの考えを尊重する姿勢を養う。
4	環境 「太陽っ子エコプラン〜わたしにできるエコ活動〜」	環境の問題を知り、自分でできるエコ活動を決め、計画を立てる。自分の決めたエコ活動をし、新聞にまとめる。エコ活動発表会をし、エコ活動を振り返る。	エコロジーの大切さに気付き、自分なりに提案し、実行する。エコ活動の振り返りを通して、自分ができることに気付き、今後、それを自分の住む地域で生かしていこうとする。	4	地域・環境 大好きにいがた体験 「わたしたちの南中野山・本所排水路とワタシ」	本所排水路を対象に、南中野山地域の将来を考えることをねらいとし、排水路の役割や地域の環境、人々の思いについて学ぶ。	地域や本所排水路に出かけることを通して、地域の環境に愛着をもち、その未来について考える。地域の歴史や先人の思いを知ることを通して、地域や排水路の未来について考えをもつ。
3	地域・福祉 「お年よりにやさしい夢の町発表会を開こう」	ツクイ訪問をし、お年寄りとの交流を通して、高齢者や介助する人々の願いや思いについてまとめる。まとめたことをもとに、お年寄りにやさしい町について、発表テーマを決め、原稿を書く。「お年寄りにやさしい夢の町発表会」を開く。	社会福祉に関心を持ち、世代や立場の違いの気持ちや考えたり、疑問に思ったことを調べたりする。進んで交流し、高齢者やそれを支える人々の願いや思いをまとめ、自分にもできることは何かを考え、提案する。	3	地域 大好きにいがた体験 「わたしたちの地域のステキ」	すごぼりを散策し、地域のステキを見つける。友達に教えたいステキ（自分のテーマ）を決めて調べ、発表会を行う。記録をもとに、「ステキブック」を作り、見つけたステキと自分とのかかわりを考え、今後の在り方を考える。	興味をもった対象に五感を働かせてかかわりながら、気付いたり発見したりする。自分を取り巻く世界と自分との関係に気付き、どう関わっていくべきかを考える。
2	地域 「わたしの町大すき」	地域の公共施設の見学や地域の名人とのかかわりを通して、発見したことや体験したことを絵や文にまとめて、周りの人に伝える。	自分たちが住む町を調べたり、地域の自然やそこで暮らす人々とかかわったりしながら、自分たちの町への愛着をもつ。町の特徴や良さ、季節による自然の変化、そこに暮らす人々の様子に気付く。	2	地域 「町のすてき大はっ見」	自分たちが住む町を探検する。探検して見つけた、もっと知りたい施設やお店を訪問し、施設等の様子を教えていただいたり働く人にインタビューしたりして、身近に住む人への理解や関心を深める。見つけた町のすてきをまとめて、発表する。	町探検を通して、自分たちの町のよさに気付き、親しみや愛着をもってこれからも活動していこうとする態度を育てる。
1	地域 「公園にあそびにしようよ」	地域の公園への行き帰りや公園で遊ぶ活動を通して、気付いたことや楽しかったことを絵や文にまとめる。	みんなが気持ちよく使えるように、ルールを守りながら、公園で友だちと楽しく仲良く遊ぶ。身近な自然とふれ合い、季節による変化に気付く。	1	地域 「はる・なつ・あき・ふゆ」	季節を通して、遊びをテーマに校庭や地域の公園（石山第一公園）を定期的に訪れたり、お年寄りと一緒に遊ぶ。	自ら積極的に自然や地域の人とかかわりながら、楽しみ方を考えたり、自然の変化や地域のよさに気付いたりする。